

あまがえ
お
天帰る 水落つ葉には 光満ち
ひかり

あおうめ
枝に残した 青梅うれし

令和四年七月十三日

大中臣正比呂



梅酒を作ろうと境内の杜に分け入った。オ、あった！ その横には、
あまがえ
保護色の雨蛙が梅の枝にしがみついて、緑陰に涼しい顔をしている。
水も魂も天地を循環しているが、その根源には光が在るからであろう。